



京都フィロムジカ管弦楽団



第36回定期演奏会

京都芸術センター制作支援事業  KYOTO ART CENTER

ブラームス / 悲劇的序曲

エルガー / 演奏会用序曲『コケイン』

ショスタコーヴィチ /
交響曲第12番『1917年』



Brahms
Tragische Ouvertüre

Elgar
"Cockaigne
(In London Town)"
concert overture

Шостакович
Симфония №12
"1917 -й год"



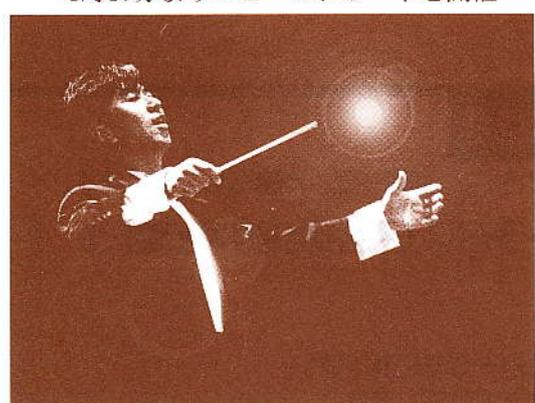
D. Schostakowitsch "1917"



2015年1月18日(日)

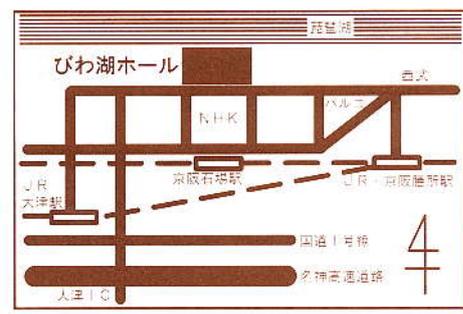
滋賀県立 びわ湖ホール 大ホール
芸術劇場

午後1時開場 2時開演
1時15分よりロビーコンサートを開催



指揮：滝本 秀信

客演コンサートミストレス：馬淵 清香



京阪・石場駅より
徒歩約3分
JR・大津駅より
バス約7分
JR/京阪・膳所駅より
徒歩約15分
名神高速・大津ICより
約10分

前売券:1000円 (当日券:1200円) 全自由席

【チケット取り扱い】
京都芸術センター (窓口販売のみ10:00-20:00)
びわ湖ホールチケットセンター、JEUGIA (三条本店5F、APEX弦楽器)
【Webによるチケット予約も可能です】
070-6506-4032 または ticket@kyotophilos.com
<http://www.kyotophilos.com/> (ホームページ)

主催：京都フィロムジカ管弦楽団
後援：滋賀県・滋賀県教育委員会、大津市・大津市教育委員会
びわ湖放送、京都新聞、読売新聞大津支局
毎日新聞大津支局、産経新聞社、朝日新聞大津総局

・乳幼児等就学前のお子様のご同伴、ご入場は固くお断りいたします。
・係員の指示に従っていただけない場合はご退場いただくことがあります。

京都フィロムジカ管弦楽団 第36回定期演奏会

京都フィロムジカが今回演奏する作品は、ソヴィエト時代のロシアを生き抜いた20世紀の巨人・ショスタコーヴィチの交響曲第12番『1917年』です。この作品は15曲あるショスタコーヴィチの交響曲の中でもとりわけ毀誉褒貶の著しい作品と言えます。「レーニンの思い出に捧げる」とされたこの交響曲は、ロシア革命によってソヴィエト政権が樹立された1917年の出来事を音楽によって描いたものとされますが、にもかかわらず初演当時のソヴィエト当局の反応はいまひとつで、むしろ一般大衆に人気があったといわれています。ソヴィエト連邦崩壊後は、「レーニンを賛美する交響曲を書くようにとの国家からの要請に従って書いた妥協作」とのレッテルを貼られることが多くなりました。しかし近年、この作品にはスターリンの恐怖政治を告発する暗号が隠されている、とする説が出てきました。

この謎めいた難曲・交響曲第12番をより良い演奏にするために、フィロムジカは最近の演奏会で、ショスタコーヴィチをはじめとするロシア音楽に集中的に取り組んできました。特に、交響曲第12番と同じくロシア革命を題材とした交響詩『十月革命』の熱演は高い評価をされました。指揮は第1回定期演奏会をはじめ、フィロムジカの節目となる演奏会を指揮してきた滝本秀信氏。奇をてらわない誠実な解釈と、立体的で雄大な響きが魅力の渋いマエストロです。様々な評価がなされるこの交響曲から、何よりも大切な「ショスタコーヴィチの音楽の素晴らしさ」が引き出される演奏になるに違いありません。

また、前半ではブラームスとエルガーの魅力的な序曲が演奏されます。『悲劇的序曲』はフィロムジカとしては久々のブラームスの演奏になります。滝本氏の誠実な指揮とフィロムジカの情熱的な演奏によって、ブラームスの充実した魅力があらわれることでしょう。イギリスが誇る巨匠・エルガーの演奏会用序曲『コケイン（ロンドンにて）』は気品に満ちた傑作です。オーケストレーションはブラスバンドの国・イギリスらしい管楽器の魅力を開いたものになっており、吹奏楽の分野でも活躍する滝本氏の本領が発揮されることでしょう。

指揮 滝本 秀信 (たきもと ひでのぶ)

指揮を汐澤安彦氏に学び、JBA日本吹奏楽指導者協会認定指導者として活動をする一方、指揮法を伊吹新一、編曲・和声学を榎田鉄之扶の各氏に師事。95年より国外でオーケストラ指揮の研鑽を積み、クルト・レーデル、リヒャルト・エデリンガー、アレクサンドル・ヴェデルニコフ、レオニード・ニコラエフ、イーゴル・シュテツグマン、アレクサンドル・カントロフ各氏に師事。ロシアへ度々渡り、リムスキー=コルサコフ『シェヘラザード』、チャイコフスキー『交響曲第5番』等を指揮し好評を博す。また、『ナタリー・ショケット・オペラ・コンサート』京都公演、大友直人指揮京響フォーレ『レクイエム』、同氏指揮ベートーベン『交響曲第9番』等の合唱指揮、バレエ専門オーケストラ・ウィングフィルハーモニー音楽監督として、伊与田バレエスタジオ『白鳥の湖』全幕、アミ・ドゥ・バレエ『くるみ割り人形』『バキータ』『コッペリア』全幕等を指揮。ロシアでもサンクトペテルブルク・バレエ・シアター『白鳥の湖』全幕を成功に収め絶賛を受ける。堺フィルハーモニー交響楽団との“モダンダンス&クラシック音楽”という異色のコラボレーションも話題を呼んだ。07年ブルガリア国立ブラツァ・フィルハーモニーでドボルザーク『交響曲第9番・新世界より』及び同『チェロ協奏曲』（独奏アナトーリ・クラステフ氏）を指揮。スタンディングオベーションによる絶賛を受ける。08年チェコの西ポヘミア交響楽団を指揮する等、意欲的に活動。このほか、ウクライナ国立フィルハーモニー、ロシア国立サンクトペテルブルク・シンフォニー・オーケストラ“クラシカ”、同市オーケストラ・ザゼルカーリ、京都フィロムジカ管弦楽団、福井大学交響楽団、大阪市立大学交響楽団、京響市民合唱団、京都吹奏楽団、阪急百貨店吹奏楽団他、多くの管弦楽団・吹奏楽団・合唱団を指揮。

管弦楽 京都フィロムジカ管弦楽団

1996年創立。知名度の低い傑作に光を当てる斬新な選曲を身上としており、日本初演・関西初演も多く手がける。遠く北海道や九州からも聴衆が駆けつけるなど、その姿勢は全国的に注目されている。また、若々しい熱気を前面に出した激しい演奏に定評がある。年2回の定期演奏会のほか、依頼を受けての演奏会も精力的にこなす。特定の母体を持たない珍しいアマチュアオーケストラで、団員の本業や出身地は様々であり、関東や東海など遠方在住の参加者もいる。学生オーケストラの経験のない人や大人になってから楽器を始めた人など楽器歴も様々に異なる奏者たちが集って音楽を作り上げている。団名の「フィロムジカ」は、「音楽を愛する」という意味の造語である。

新入団員大募集中！

～私たちと一緒に演奏しませんか？ まずはお気軽に見学にお越しください。団員一同、お待ちしております。～

●募集パート ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバス(弦楽器急募！！)

クラリネット・ホルン

※募集パートは随時変わることがありますのでホームページもご覧ください。

〔参加資格〕 練習に出席できること。年齢制限はありません。学生の方の参加も歓迎します

〔練習日時〕 毎週日曜日(原則午後1時～午後5時) 春と秋に練習合宿(大津市内)

〔練習場所〕 京都芸術センター、河原町丸太町・荒神口周辺・伏見など京都市内各所のほか、大津市など

〔諸費用〕 活動費ひと月3000円、合宿費10000円程度、演奏会参加費20,000～30,000円(学生は半額)

入団・見学に関するお問い合わせ先 E-mail: recruit@kyotophilo.com

Web サイト (<http://www.kyotophilo.com/>) では、過去の演奏曲も紹介しております。是非一度ご覧ください。

〈お知らせ〉京都フィロムジカ管弦楽団 第37回定期演奏会：2015年6月28日(日)長岡京記念文化会館